

骨軟骨損傷（離断性骨軟骨炎）

捻挫のあとに足首の中に感じる痛みが残っている場合、軟骨や軟骨+骨の損傷が捻挫により発生した可能性があります。損傷の範囲は直径数ミリメートル程度でも、軟骨が損傷して骨から剥がれかかったような状況になると、何時までも痛みが残り、スポーツ活動等に支障が出ます。



このような場合には変性した軟骨を取り除くか、損傷範囲が広いときには骨軟骨の移植手術が必要になります。病変の面積が 150 mm^2 までの場合は変性軟骨を鏡視下に取り除き、その下にある骨組織に小さな穴をあけて骨髄出血を促します。これによって骨軟骨の再生が生じることが知られています。中学生や高校生までの年齢層ではこの方法で治すことが可能です。

このように場合には変性した軟骨を取り除くか、損傷範囲が広いときには骨軟骨の移植手術が必要になります。病変の面積が 150 mm^2 までの場合は変性軟骨を鏡視下に取り除き、その下にある骨組織に小さな穴をあけて骨髄出血を促します。これによって骨軟骨の再生が生じることが知られています。中学生や高校生までの年齢層ではこの方法で治すことが可能です。



変性軟骨除去後の骨髄出血



術前



術後 3 か月

しかし、成人例で特に病変の面積が 150 mm^2 を越えると、修復率が下がるため、骨軟骨の移植を要します。その場合には膝関節から骨軟骨一体となった組織を採取して移植することになります。



骨軟骨移植術のシエーマ